



教職員セミナー「夢みる校長先生」上映会、開催される！その1

10月26日、北九州芸術劇場小劇場で第2回教職員セミナーが開催されました。今回の内容は「夢見る校長先生」の上映会です。前例主義に縛られている教育現場も多い中で、子どもの立場になって「通知表をなくす」「宿題をなくす」など校長裁量で新たな取組を断行した7人の校長先生のドキュメンタリー映画です。当日は、スタッフを含めて80名近い方が参加して下さいました。皆さん真剣な様子で見ている様子を見ても「来てよかった」「こんな取組をしている公立学校があるんだ。」のような感想が見られました。



参加者の感想(一部)です。お読みください。

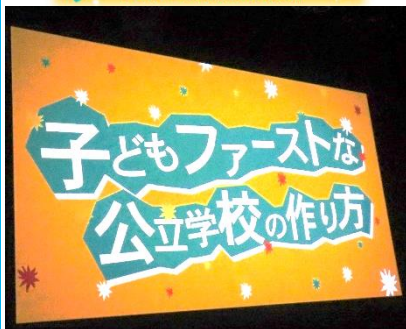


○人間の一番の徳は機嫌が良いこと、という言葉をもっとに日々過ごしています。同じ考えの校長先生がいて、嬉しかったです。公立学校でも校長裁量で色々なチャレンジができるのだなと思いつつ見ました。楽しく過ごすこと、生きること、そのサポートができるよう、また月曜から子どもたちと頑張っていこうと思います。(小学校 20代)



○子どもたちが自分でやりたいと思ったことを実現できるように支援していける教師でありたい。今は高校生の進路を担当しているが、子ども自身の生き方ややりたい仕事に沿って支援している。栄華の中で、「教師が生きてきた時代と、子ども体が今生きている時代の違いを明確にすること」という言葉が刺さりました。特に知的障害の生徒に関わってきて、スマホの取り扱いで生きやすくなっているのに、活用できない現状がもったいないと思っていました。「情報を覚えるのではなく、活用する時代」は実感しています。(特支 40代)

○「もっと公立学校でも自由にしたいんだ」というエールを強く強く感じ取った。新しい「ナニカ」を始めるのは難しいけれど、通知表、宿題を失くすことは簡単かもしれないと考えた。そこから教員一人ひとりの考えも変わっていくのだなと考えた。不登校の子ども授業に不登校な子どもと接しているときに感じているモヤモヤの原因に気づかされた。今の学校教育が抱える問題の答えがあると思った。(小学校 40代)



○この時期、この映画を見ることができて、私にとってとてもよかった。学校で働くことは今年で終わりだからと思っていましたが、学校に通勤していなくても保護者として(わが子だけの保護者でなく、みんなの子どもの保護者として)、地域の人として先生達の友達として子どもたちのそばにいる者として、かかわりたいなあとエネルギーをもらいました。(特支 60代)

○私も、学生だった頃、「ブラック校則」と思えるようなものがありました。「校則ゼロのなることで、色々な苦労があったと思いますが、実戦で北居ることがとてもすごいと感じました。ぜひ働いてみたいと思いました。(小学校 20代)

NO.32 につづく

わからないこと・困ったことがあったら… 何でも気軽にお問い合わせください！

///JTU 北九州市教職員組合 〒802-0072 小倉北区東篠崎3丁目4-1

E-mail: jtuhokyu@lime.ocn.ne.jp

北九州教育会館 TEL (093) 953-0381

